

令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立瀬崎小学校

(令和3年1月22日作成)

1 学校教育目標 学校教育目標 心豊かで たくましい子	
目指す学校 「子どもたち一人一人を大切にし、笑顔と活気あふれる学校」 「学びいっぱい」「やさしさいっぱい」「たくましさいっぱい」	
2 重点目標・努力目標 ＜笑顔いっぱいの学校をつくる＞ 「学びいっぱい（学んだことを生かす）」 「たくましさいっぱい（健康な体を作る）」 「やさしさいっぱい（思いやりの気持ちを育てる）」	3 前年度の成果と課題 成果 ○幼保・小・中で連携しながら、一貫教育を推進することができた。 課題 ●教職員の負担軽減に向けた業務量の削減と負担軽減策の実行。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○学校の重点課題解決に向け、チーム瀬崎として全教職員が一体となって取り組んだ。</p> <p>●「心豊かで」の取組で、読書活動は学校では活発であるが家庭での実践が課題である。次年度は家庭との連携をより一層図る。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	<p>○瀬崎中学校区のみならず、目指す児童像の実現に向け、知識構成型ジグソー法を中心に校内研究を行うことができた。</p> <p>●次年度の発表に向け、計画的に各教科におけるジグソー法実践を行い、自己肯定感・自己有用感の高揚を図っていく。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○養護教諭を中心に、新型コロナウイルス対策を全職員で行うことができた。</p> <p>●児童の外遊びにおける、安全動線の確保が課題である。次年度に向け検討していく。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○校内の安全確認、環境の改善に積極的に取り組み、個人情報持出しについても職員の意識が高まり持出簿の活用率が高まった。</p> <p>●老朽化による施設設備劣化が甚だしい。早急に改善していくよう取り組んでいる。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<p>○学校運営協議会、学校HPのリニューアルにより、地域に情報を発信することができた。</p> <p>●新型コロナウイルスにより、学校公開の実現が困難であった。次年度は動画配信等によりオンラインでの開かれた学校を実現する。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○今年度より改めて作成した目指す児童像の実現に向け、小・中で共通したアンケートを行い、成果と課題を共有する。</p> <p>●新型コロナウイルスにより、幼・保との交流が困難であった。来年度は、実際に顔を合わせる交流だけでなく新しい交流方法を模索していく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<p>○臨時休校により削減した時数を行事の削減により確保し、教育課程の実現に向け取り組むことができた。</p> <p>●学習指導要領の実現に向け、様々な角度からさらなる教育課程の充実に取り組む。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○校内研修の充実により、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善を行った。</p> <p>●各主任を中心に、各教科等の情報を共有し、各教科における指導力の向上を目指す。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○校内研修と指導者の講義などにより、理解が深まった。また授業研究会により、道徳教育の理解が深まった。</p> <p>●児童・保護者へ適切な評価を伝えることのできる評価計画を作成する。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<p>○外国語の教科としての意識が高まり、ALTと連携しながら授業力を向上させた。</p> <p>●指導内容のさらなる工夫と改善を進め、全職員が授業力を向上させていく。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<p>○オンラインを活用し、代表委員会における組織的な活動ができた。</p> <p>●学校全体での「縦割り活動」等を取り入れ、教育活動全体に特別活動を浸透させていく。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○3年生の枝豆栽培、6年生の調べ学習等ふるさと草加を意識した充実した活動を行うことができた。</p> <p>●指導と評価の見直しを行っていく。パリポリドリルの活用も計画に位置付けていく。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<p>○生徒指導委員会を中心に共通理解・行動の下、指導にあたることができた。また、課題のある児童については学校全体で関係諸機関とも連携を行った。</p> <p>●引き続き、不登校児童への対応が必要である。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<p>○特別活動全面实施を受け、(3)のキャリア教育の位置づけ、授業改善を行うことで研鑽に努めた。</p> <p>●各学年における発達段階に応じた「キャリア教育」の充実に取り組む。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○教育支援室、かがやき特別支援学校と連携により適切な指導・支援を行った。</p> <p>●引き続き、教育相談研修の実施と担任への支援を行っていく。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止の取組と読書活動を両立させ読書に取り組む児童を増やすことができた。</p> <p>●学校だけでなく、家庭でも読書に取り組みを実行する必要がある。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<p>○情報教育担当を中心に、各学年におけるプログラミング教育の指導案を作成し、授業を行った。</p> <p>●年間指導計画のプログラミング教育を意識して実践を深める必要がある。</p>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<p>○人権標語、人権の木取組に参加し、人権感覚の育成に努め、取り組むことができた。</p> <p>●12月の人権週間の取組を強化し、人権感覚育成プログラムを授業で確実に行われたか見届けをする。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①地域の力を学校に	・地域の安全と学校の安全確保	A	○ふれあい推進室やPTA、あいさつ運動と連携し、登下校の見守り、校内巡視を行う事ができた。 ●ふれあい推進室との協力を今後も継続的に行っていく。
	②体験活動の充実	・地域の方の専門性を生かす	B	○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、地域との体験活動の実現は不可能であったが、次年度に向けた計画の確認を行うことはできた。 ●さらなる活動の充実にむけ、新たな体験活動の計画を位置付けていく。
	③幼保小中連携の充実	・15年間を通じた教育課程の編成	B	○次年度の発表に向け、今年度も継続した取り組みができた。今年度の実践を基に、瀬崎中学校区一貫教育をさらに充実させる。 ●次年度の発表に向け、特に幼保との連携を強化していく必要がある。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- (1) 休校による授業時間数の確保に向け、学習内容の定着のために教育課程を見直し、学習内容を定着させることができた。
- (2) 校内行事の精選、放課後会議の見直しに取り組み、負担軽減を行った。また、スクールサポートスタッフの活用、年休取得促進システムの構築、テレワークの推進等を行うことで、在校時間の削減を図ることができた。
- (3) 教育支援室、かがやき、児童クラブ、児童相談所等のさまざまな関係機関と連携を行い、さらにSSWの活用も行うことで教育相談の取組を推進させた。
- (4) 瀬崎中学校区の幼稚園、保育園、小学校、中学校とともに、幼保小中を一貫した教育に取り組みをさらに連携し、深めることができた。
- (5) 学校関係者評価では、今年度も落ち着いて授業に取り組む児童の姿や、熱心な教員の指導も良いとの評価をいただいた。

6 次年度の改善策

- (1) 学習指導要領の全面実施により、各教科の授業内容の向上をより一層図っていく。特に知識構成型ジグソー法、思考ツールの活用により、主体的・対話的で深い学びを授業の中で実践する。
- (2) 外部機関、教育委員会、地域等と連携し、不登校児童の数を減少させる。また、課題をもっている児童への対応を全職員で共通理解の下、引き続き行っていく。
- (3) 業務量削減のため、思い切った改革が必要である。会議のペーパーレス化等を推進することで、時間と予算の削減を図っていく。
- (4) 読書活動の充実に向け、さまざまな取組を行ってきたが、家庭における読書が定着していない。学校の取組を家庭で浸透させるよう位置付けていく。
- (5) 幼保小中を一貫した教育に向け、今後も瀬崎中、高砂小、せぎき保育園、谷塚幼稚園と連携を深めていく。